

# 銀座音有入居ビル 清掃活動

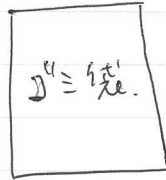
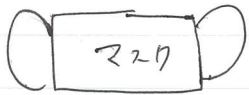
2018年10月13日(土) 実施

2018年10月23日(水) 提出

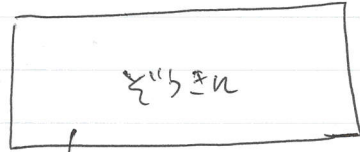
英語道弟子課程、弟子、T.A.

### ★ 持ちもの ★

・ 持てきもの



小さいハンカチ



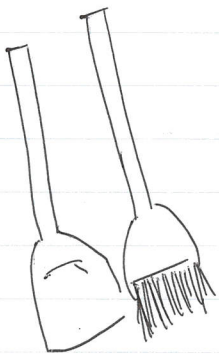
1	3	5	7
2	4	6	8

持ちて通いで「変えるの」  
4枚も持てると「便利」!

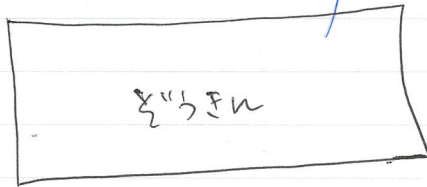


エアロンビモ、セガ「をつくの」  
ズボンも汚れてもいいものが  
いいと思いたい。

・ お借りしもの



ほうきとチリトリ



「木では汚れるが「落ちる」  
「シリコン」は「おぼろ」!

細かい場所「しっかり」  
掃除「こと」で「したい」。

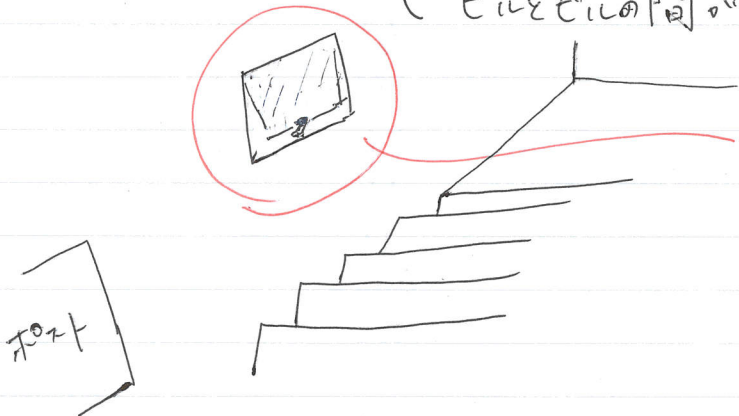
### < 当日の流れ >

10:25

銀座 普南の扉をロック!

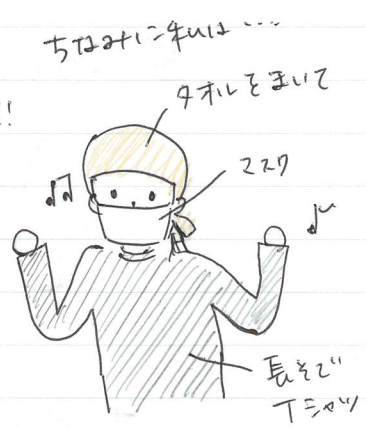
- 清掃用具の確認
- 換気場所の確認

ビルとビルの間が近いので注意して開けること



1Fと2Fの(24F)の1つで左側りの窓は開けておく(隣のビルと近い)

- 汚れてもいい格好にためて準備!!



10:35~

清掃スタート!

### < 掃きぞうい >

屋上ドア前 → 1F玄関

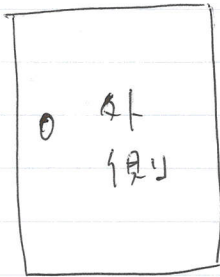
ビル入り口外側を一歩に掃きぞうい

窓枠や段にたまっているゴミも、(ほうきで)払いながら埃を落としていく。

11:10 ~ <拭きとらい>

とらきものが汚れているうちに ① ~ ⑤ の順番で拭く。

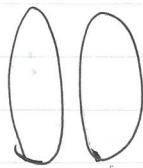
① 金庫内書翰入り口のトップ  
トイレのトップ



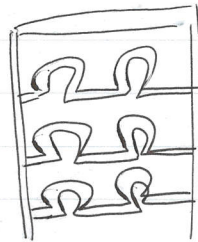
② くつばらとくつばら置き



③ スリッパのウラ側



④ スリッパの上



⑤ 靴置き



最後に、靴を掛けるマットを  
拭いてから順段の拭きとらい  
スタート!

上から順番に!



## ⑥ 清掃活動を通して

どうして生井大王は弟子に、金座書齋のあるこのビル  
の階段を清掃させてくれたのか、このことを考えたから  
清掃しようと思っただけ。

掃き掃除の時には、普段、階段を使用している、  
あまり感じることはないが、細かい埃が出てきて、  
見ようとしてはいいが、見えないものは、よくあるとあつと改めて思っただけ。

掃き掃除では、一段一段、自分の手で拭いていると、  
作業の重さを感じてくる。  
金座書齋と言われる多くの人は、後継者や弟子に何回、  
この階段で立ち止まるとどうなのかと思っただけ。  
嬉しいとき、悲しいとき、辛いとき、わくわくするとき、時には、  
反省しながら踏む一歩、自分を落ち着かせるための一歩と、  
階段の全段の一段一段が、歩くとともに、誰かにとっても  
必要であり、特別な場所だと思っただけ、手に力が入り込んでくる。  
そして、金座書齋へと歩くと、この場所を自分の手で清める経験が  
できることを、とても嬉しく思っただけ。

清掃してビルの糸田のところを見ると、扉は、壁がはがれていて、  
欠けていて、古いビルであることがよくわかりました。  
ビルの歴史を感じていると、宇宙が誕生して、地球が誕生して、  
人類が誕生して...と続く歴史の中で、このビルが及第点、  
多くの人のために、入居と退居を繰り返して、生井大王がこのビルを見つけた、  
金座書齋を作り、数年後、糸田が面接に訪れて、週に一度通い、  
生井大王の弟子となり、今、こうしてここに立っていることの、  
ものごころの奇跡を実感しました。

手に、このビルを及第点で一人ではなく、設計士、職人、  
及第点の人たち、職人、トラックの運転手、大勢の  
大勢の人たちが関わっている。この人たちは、このビルを及第点という  
目の前の仕事をしながら、このビルの中に、金座書齋の子供  
場所ができていたことがよくわかった。

で、今、この場所にいるのは、何故かおかげでもある。
 どう思うと、和という一つの存在が、今を生きることは、
 自分の想像もつかないものに振り回されているのではいか、
 下からと、より善く生きる必要があるのではいか、と書いて。
 自分に見えてきた時、前は限られていた。
 今、この時を生きていることは、和の想像をはるかに超えたものがあり、
 それが何かはわからないけど、生かす主のもとで、弟として、
 生かす主の血を流す和の中に入れていくことを通して、
 一人の人間として生きることができると書いて。

階段は一段ずつのぼるなり、おろすなり。
 ひとつのことを考えても、一段ごとに思うことは微妙に
 違うと書いて。何かを変えて一段、その一歩で、
 また新しい自分に変わっていく。
 階段の清掃を通して、一段ずつ進む、その一段の大切さ、
 として、一歩の大切さを実感として和に込めようとして
 書いて、このことではないかと書いて。

毎週、階段を使っていると、一度も同じ交差点で
 いて、これはいいと書いて。ビル入り口から入って
 毎週の階段をのぼるなりと、和はいつも
 「今日もまたここに来た」と書いて。
 いつか、このように思うようにして、和は覚えていく。
 清掃活動をして、銀座書齋のビルの階段のことを
 考えるようにして書いて。
 それは、銀座書齋に行くことが、決して当たり前のことではないと
 実感できるように、下からと書いて。
 このことに気づいて、これも嬉しく書いて。

清掃時間の日安を始める前に言いました。が、  
式までうじに時間がかかりました。  
で、先生は、急いであらうに清掃が大事だと言ってくれました。  
清掃の間中、先生と近づく感じがしました。  
また、どうやら洗いに銀座番南に入室の感じが、  
手は臭いられている感じがしました。

お忙しい先生の貴重な時間を、清掃活動という、  
学心の場を清める経験を見事にしてくださり感謝いたします。



清掃活動終了後、

おいしい洋食ランチ  
セールのとモに!

学習時間の時間

清掃活動の後に、生井先生より美味しいランチと貴重なお時間を  
頂戴いたしました。

◎ B段階のこと

以前にJ.K.さんの言記述で、  
「勉強は重いものを持つてB段階をのぼっていくようなもの ~」  
というものがあって。

→ 上記、勉強が苦に感じるのか?  
それは、固定観念が取れていないから!

↓  
固定観念が取り払われると、  
勉強は喜び、生井先生のモとの勉強は、  
本質のこと、普遍的なことを教授してくれているので、  
この上ない喜びとする。

和は勉強をどのようにとらえているのか?

重いものを持つて、一段一段のぼっている?

和は、生井先生がいつも引き上げてくれている、  
そのB段階に立つたことが幸運であると感じている。



① アポロ11号に搭乗した「アストロング」船長

生誕が、「アストロング」船長のことは、

"That's one small step for a man,  
one giant leap for mankind."

(この一歩は、一人の人間にとっては小さな一歩であるが、  
人類にとっては偉大な一歩である)

この英語音訳を聞き、

「本は地球にいて、魂、精神は、月に行っている。

!! 実際には魂と精神はちがうもの。

↑↑、私にわかるやうに語りだすにこのように表現された。

「アストロング」船長は3人の宇宙飛行士。

この3人は、命をかけて、地球から大気圏に、そして月にいき、

月に降り立ち、命をかけて、月の石を持ち、地球に帰ってきた。

当時、莫大な国家予算を使い、この偉業を成し遂げた。

↓  
では、

月の石を持ち帰ること、目の前にはある

ゴミ屋敷を清掃すること、

どっちのほうが、大事はどっちに「なるか」。

前回の英語科留古の専学1回の時期的に参考受いにいってことば、

何の仕事、どんな職の、 → local での問題。

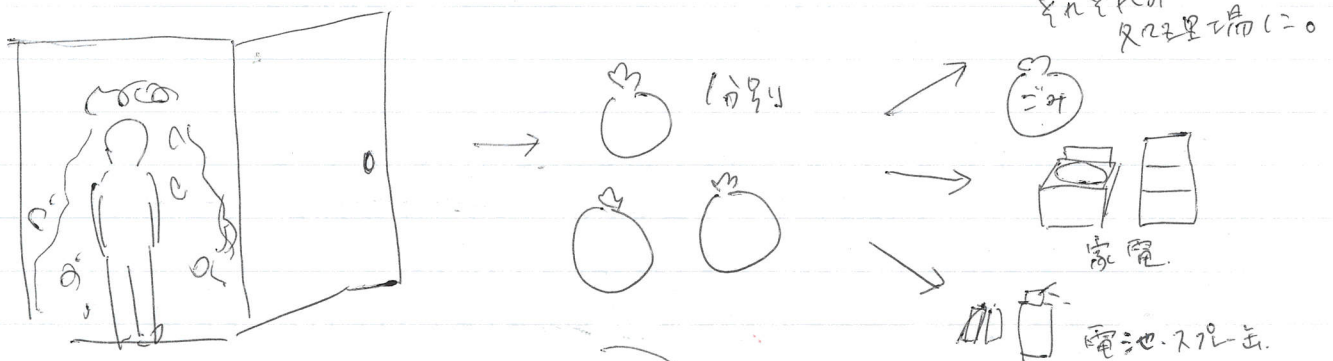
どの工場の仕事にしても、ゴミゴミシュツリスは自分自身のもの。  
何をしているかは問題ではない。



仕事としてから私たちに人類を背負える!

- ゴミ屋敷の清掃には、人間の根本問題を思索の  
ためのチャンスがある。

繁栄の村の仕事であるゴミ屋敷の清掃。



本質にゴミが骨丈以上に  
あつたり、  
食パンはものか、そのまゝにいてあつたり、  
ゴミに虫がいて、  
ゴミの上で生活しているのど、  
ゴミがカチカチにたまっていて、...

少の油断で  
誰にでも走ること!!

ちよと机の上にも物を置く……と  
結局は、机の上はものがいらぬよ  
と。〇

あつたゴミはゴミ、ネズミのフン、古いゴミ、食べ物の悪臭、  
日傘には、扉のノブにペーパーホルダーがフックから出て来り...  
人間が、人間の生活の場を汚している。

人間は「生きている」ことで、地球を汚す。  
人間自体を汚す。

特別なことではない。  
いつ、自分の体が重たくなって、ゴミをためてしまうか、  
誰にもわからない。誰にでも起る。

自分ではどうすることもできなく、ゴミ屋敷を清掃のこと。

||

今、目の前の汚れたものを清掃する。  
環境を整える。  
社会の一員にもなる仕事である。

ゴミの中で仕事をしていると、自分はきれいなものだと  
かんがえていなくてはならない。自分も、地球から見れば、地球を汚す、  
悪臭をはたき出すゴミ生産者ではないかと思う。  
「から」より、清潔でいること、自分の体だけでなく、環境も、  
心も、精神も清潔でいることが大切ではないかと思う。

いつか、田舎者がおしゃべり言葉。

"Cleanliness is next to godliness."

(清潔は敬神に次ぐ美徳)

72世、"Cleanliness" か "godliness" に次いで  
大事なのかも。

清潔であることが、神を敬う次に大事なこと  
であり、表現するのははじか。

清掃を通じて、思索の上での中心になる。

◎ <金針の疑<sup>い</sup>>

「師における〈金針の疑〉の意味」② において、

"The meaning of blood you receive from  
Toshiyuki Namai as his disciple."

(英語音声講義)

これは、神利草天の血の中にある精神の「権化」である。

これを、「ワード」で「身懸ける」場面について「い」  
のことで、迷、い。

でも、本当のことは、本当のことはそのまゝ行であるのが大事なの。  
受講生も身懸ける場面について「い」。



